

---

**檻**

おろろー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
檻

【コード】  
N0794K

【作者名】  
おろろー

【あらすじ】  
うん。そんな事もあるよね。

檻だ。

四方を柵で囲まれ、脱出を拒む。

檻だ。

上は天井を見上げる事が出来るのに、非力なこの身では出る事は出来ない。

檻だ。

食べ物も配給される物に限られ、その殆どはミルクにも劣る、薄味の水。

檻だ。

後数年、私はこの檻から出る事は敵わない。

どれほど足掻こうと、どれほど喚こうと、看守の気まぐれで外を見る事はあれど、己の意思に置いて出る事は出来ない。

なるほど、悲鳴とは正しく、この状況を嫌うが故にあげるのかも  
しない。

「 ちゃん。ごはんでちゅよ〜」

ああ、解ってるよ今回の母。

母乳ではなく、せめてミルクにしてくれ。薄味すぎて死にそうだ。

「うんうん。よく飲んで、大きくなりましょうねー」

飯を、固形物をくれ。恥など大昔にすててきたけど、乳にしゃぶりつくのはもつと歳をとってからの方が良いんだ。

「はい。ポンポンも良くなったみたいだし散歩に行こうか。それともお昼寝にしましゅか」

とろけきつた言葉使いは構わない、それでも私を押し潰しそうになった母と寝るのはゾツとしないな。

生後1年で死ぬ事は経験したが、6ヶ月は初だ。  
やめてくれ。

ああ、私は何故悲鳴をあげるのだったか。

(後書き)

なんて不憫な主人公なんだ…

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0794k/>

---

檻

2010年10月11日13時10分発行